令和８年度和歌山県統計グラフコンクール審査講評

令和８年度和歌山県統計グラフコンクールにおいて受賞されました皆様方、おめでとうございます。県下より各部門の合計２９０点（２９７名）の多数の作品が応募されました。

その作品を、テーマの選択、データ理解、統計グラフの表現技術、正確性、要件の充足状況、全体のまとめ方に重点をおいて審査しました。

その結果、特選５点、入選９点、佳作９点、合計２３点を入賞作品として決定しました。

【第１部（小学校１・２年生の作品)】

第１部の作品からは特選１点、入選１点、佳作１点が入賞しました。

○特選「おうちの畑は大いそがし　まい日しゅうかく大こん大ちょうさ」は家が大根農家であることから、大根の収穫量やサイズのデータを実際に集め収穫記録にまとめています。そして、収穫データを項目別に表やグラフで表し、その分析を行っています。育った大根を大切にして出荷している様子が分かります。イラストや色遣いなどの工夫が見られ、とても見やすく整理された作品となりました。作品自体の内容のすばらしさと家族の仲の良い様子などが伝わってきます。特選にふさわしい作品となっています。

○入選「命を守るヘルメット」は日頃から自分は自転車のヘルメットを着用しているけれども、周りの人のヘルメット着用が少ないと感じ、朝と夜同じ場所で着用人数を調査しています。実際に調査方法を決め、調査を行っています。調査結果をグラフに表すことで分かったことや気づいたことをまとめているので作品に説得力があります、やはりヘルメットを着用している人がとても少ないことや自分の命を自分で守るためにもヘルメットをかぶる必要性を訴えてくれています。

○佳作「ジュース・おかしどこでかったらオトクだろう？」最近の物価高騰のニュースを新聞で知り、その価格を比較するため近所の複数の自動販売機、コンビニエンスストア、スーパーに実際に行き同じ商品の値段を比較しています。自分の興味関心をきっかけに、実際にたくさんのデータを集めているところの努力が見られ、素晴らしい作品となっています。そしてデータのグラフ化、気づいたことを感想にまとめることができています。

【第２部（小学校３・４年生の作品)】

第２部の作品からは特選１点、入選１点、佳作１点が選ばれています。

○特選「和歌山の漁業をもりあげるぞ～ぼくがアンバサダーになる！～」レイアウト、項目ごとの色分け、イラストどれもが高いレベルにあり特選にふさわしい作品です。実際にアンケート調査を学年の児童、漁師、漁港に魚を買いに来たお客さん、スーパーの店員さんに行い、そのアンケートの結果を元に考察しているので、非常に説得力があります。自分の意見

をアンバサダー公約として３つ掲げ、まとめにつなげて、和歌山の漁業を盛り上げたい気持ちが強く伝わる作品となりました。

〇入選「学校で重さが変化！？ランドセルの朝と帰り大調査」この作品は日々使うランドセルの重さに焦点を絞り、様々な場面での重さの変化や１日での重さ比べをしています。棒グラフや折れ線グラフを使い、その結果を分析しコメントを添えてくれています。グラフや表のレイアウトも工夫されとても見やすく仕上がっていて、内容も分かりやすいです。

〇佳作「メダカのたまご大調査」は、メダカの卵を毎日採取、水温と生まれた卵の数の関係を２か月以上にわたる長期間観察、調査しています。特徴的な日を抽出し分析を行っています。ふ化するまでの日数やふ化した後の生存期間を調査し、水温が上がると生まれる卵の数が増えるものの、水温が高すぎるとふ化しても長く生きられないことがよくわかります。長期間にわたる調査に努力が見られる作品になりました。

【第３部（小学校５・６年生の作品)】

第３部の作品からは佳作１点が入賞しました。

〇佳作「高校野球選手の熱中症と気候の関係」は、熱中症と気候の関係に関心を持ち、過去３年間のデータについて検証を行っています。項目に合わせて、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフを使い分けているところに工夫が見られました。結果の考察をそれぞれ書いて、最後に自分なりにまとめを書いています。今回の調査で地球温暖化の進行を実感できたようです。今後さらに深堀してみようということにつながれば素晴らしいですね。

【第４部（中学生の作品)】

第４部の作品の中から、特選１点、入選５点、佳作４点の合計１０点が入賞しました。

〇特選「眠りから考える日本社会」　この作品は、「世界で一番寝ていないのは日本の女性」というニュースをきっかけに、日本人の睡眠不足の現状とその社会的背景について調査した作品です。OECD による国際比較データに加え、夫婦間の家事分担率や睡眠不足が与える健康への影響など、数多くの公的統計や意識調査を多面的に組み合わせて分析しています。単に睡眠時間の長短を示すだけでなく、社会構造や家庭内の役割分担といった根本的な要因まで深く内容を掘り下げ、具体的な解決策の提言まで一貫してまとめている点が素晴らしいです。

〇入選「桜、急いでます。」この作品は、桜の開花時期が年々早まっている実感を出発点に、過去５０年間の和歌山県における桜の開花日データと地球温暖化との関係を調査した作品です。Web アンケートの調査結果、「４００度の法則」や「６００度の法則」といった積算気温による開花予測の法則を自ら過去の気温データに当てはめて比較・計算するなど、大変熱

意の感じられる検証が行われています。開花日の変化の背景に気温の上昇があることを見出し、身近な疑問から背景にある地球環境問題への意識や行動へと論理的につなげている点も素晴らしいです。

〇入選「暑すぎる！！～夏の暑さの変化と危険性～」気象庁の気象データを使い、比較対象となる時点、１４５年前、４５年前、１５年前から各年などの気温をグラフや表に表し、地球温暖化の深刻さがよくわかる作品となっています。同級生へのアンケート調査を行い、グラフ化、考察をしています。随所にあるコメントはわかりやすくまとめられています。

〇入選「あなたは自転車交通マナー守れていますか」制度改正が行われたばかりで気になる内容がテーマとして取り上げられています。グラフ「青切符導入前後の自転車事故数の変化」は、実際に事故数が減っていることが分かり、効果的な制度であった証明にもなっています。グラフや表にそれぞれのコメントが添えられておりとても見やすく分かりやすいです。最後にこの作品を作り上げ自分が感じたことを述べ、まとめることができています。

〇入選「てづくりからあげ弁当の裏事情～実は差額２万円！？物価高の世界～」身近で関心のあるテーマについて、在校生のほか保護者にもアンケートを行い、手の込んだ作品となっています。小売物価統計調査の結果数値を使用し、５年前と現在の価格を比較し、材料ごとの価格推移、年間換算や１か月換算した場合の価格差など興味を引くようなグラフが作成されています。

〇入選「震源地の大移動！？2013・2026 年の 6 か月分データから探る震源地の変化」この作品の一番の特徴は、調査方法と独自で考えたポイント化です。全国の都道府県別の地震回数をすべて数えた努力には驚きました。また、それを独自のルールに従ってポイント化し、棒グラフに表しました。新たな視点を持って、研究を深めようとする姿勢は素晴らしいです。

〇佳作「フルーツ王国和歌山」この作品は、和歌山県が「フルーツ王国」とされる理由について、面積の近い福岡県と山梨県を取り上げ、３つの仮設（気候・土地・生産者）をもとに調べ丁寧にまとめられた作品です。公的データを活用して仮説を順序立てて検証する真面目なアプローチがなされています。仮説を１つずつ追うことで、和歌山県の果物づくりについて自分なりにまとめられている点も素晴らしいです。

〇佳作「中一のびざかりの身長～よく聞くウワサを調査せよ～」この作品は、中学１年生の身近な関心ごとである「身長にまつわるウワサ」を確かめるため、クラスメートを対象にアンケート調査を行った作品です。睡眠時間、牛乳の摂取量、生活リズム、運動習慣といった４つのウワサと身長との関係について、グラフを用いて多角的にデータを可視化する工夫

が見られます。予測と異なる結果が出てもデータを客観的に受け止め、サンプル数の課題に触れつつ自分なりの結論を考察にまとめている探求姿勢は素晴らしいです。

〇佳作「神キャラクター～女性 ver.～&神漫画」将来の職業候補である漫画家になるために自分が気になる 2 つのテーマに関して調査し、関連するアンケート結果をグラフにして作品にまとめています。グラフやイラストが整理され、見やすく配置された作品となっています。

〇佳作「推し活は日本を動かしている！？～“好き”が生み出す経済効果と社会への影響～」よく見かけるという「推し活」をテーマにした作品です。「推し活」には様々な効果があることをいろいろな視点から調査しグラフを効果的に使いまとめた作品となっています。「推し活」が私たちの生活を豊かにし、日本経済を元気にしていくきっかけとなればと考え期待の込められた作品となっています。

【第５部（小中学生のパソコン統計グラフの作品）】
第５部の作品の中から、特選１点、入選１点、佳作１点の合計３点が入賞しました。
〇特選「スポーツ観戦の“熱量”について」この作品は、世界中で行われている人気の高いスポーツ観戦についてテレビやインターネットで見ることができる今と１０年前とを比較して調査を行っています。深夜のテレビ観戦の実態を様々なデータから解き明かそうと試みた作品です。世論調査データの比較による人気の変化の分析にとどまらず、深夜に行われたサッカーワールドカップの視聴状況を「関西電力の過去の電力使用状況データ」の変動から検証するという、独創的で着眼点の光るアプローチがなされています。仮説に対して多角的なデータを活用して分析を深め、身近なインフラデータから社会現象をとらえなおす高い論理性が示されている点も極めて素晴らしいです。

〇入選「これからも健康でいるためにー睡眠時間と健康の関係性ー」この作品は、作者自身の体験から関心を持った睡眠時間と健康との関係を探ろうと、年代別の睡眠時間の傾向とその原因を文研や統計データ調べ、グラフをもとに分かりやすく説明しています。若者はスマートフォンの利用により睡眠時間が少なく、高齢者は中途覚醒が多いため結果的に睡眠時間が長くなっていること、長時間睡眠をとれたとしても長寿にはつながらないことなどをデータをもとに説明しています。グラフの配置や配色も工夫されていて、全体にすっきりまとめられています。

〇佳作「熱中症を防ごう」熱中症と気温や暑さ指数との関係や１０代の人たちの熱中症の状況、対策を調べている作品です。熱中症搬送者の年代別人数を人口比別で捉えなおして、高齢者だけでなく１０代の若者も多く発症していることをデータで分かりやすく伝えていま

す。若者も油断せずにみんなで暑さに対する知識を持ち、対策を行うことが必要だという主張がしっかりと表現されています。

【第６部（高校生以上の作品）】
第６部の作品は特選１点、入選１点、佳作１点の合計３点が入賞しました。
〇特選「統計で見る空き家問題の実態」少子高齢化や人口減少に伴い管理されない空き家が社会的な問題となっていることに着目し、全国や地域の状況、今後の見込み、各種アンケート等を調べ、美しくまとめあげた作品です。和歌山でも大きな課題である空き家問題を掘り下げ、空き家の活用につなげる策を提案できていることも素晴らしいです。様々なグラフを色彩美しく、親しみやすいイラストも加えて配置し、視覚的にも引き付けられる構成となっています。

〇入選「日本をキャッシュレス社会へ」日本のキャッシュレス決済の現状、海外との比較、日本社会へのメリット等を様々なデータから調べ、分析し、きれいにまとめ上げた作品です。グラフの分析が明快で分かりやすく、また、消費者・事業者別のメリット・デメリットを視覚的にも対比して配置するなど、全体の一貫した構成も素晴らしいです。各データを踏まえた、今後キャッシュレス社会を進めていくための具体的な提言にも説得力があると感じました。

〇佳作「長時間労働で国は豊かになるのか？」日本では労働時間が長い割に経済的な豊かさを感じられている人が少ないのではないかという思いから、世界のデータを調べ、労働生産性を高める方策を考えた作品です。「長時間労働で国は豊かになるのか？」という働く世代に響くテーマ設定が興味深く、様々なデータをグラフで表し、的確に表現できています。

以上、部門ごとの講評とさせていただきます。多数のご応募ありがとうございました。これからも、身近な問題、社会・経済・環境問題など、自分が興味・関心を持つことや問題意識を持ったことについて、調査や観察などを行い、集めたデータを分類、集計、グラフ化し、表現することや分析することの楽しさを体験し、作品作りに励んでください。次回も多数のご応募を期待しています。